

経皮的冠動脈ステント留置術の流れ

虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症など）の治療法は、前のページにもあったように様々なものがあります。ここでは、その代表的な治療法である経皮的冠動脈ステント留置術について説明します。

治療前



自宅にて胸苦しさを感じたため、救急車で来院された患者さんの画像です。虚血性心疾患が強く疑われたため心臓カテーテル検査を行ったところ、左のような血管の状態でした。
 ○部分の血管が他の血管に比べて著しく細くなっていたため、すぐに血管を広げる治療を開始しました。



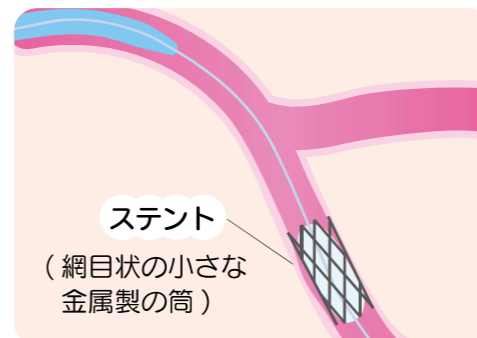
治療開始



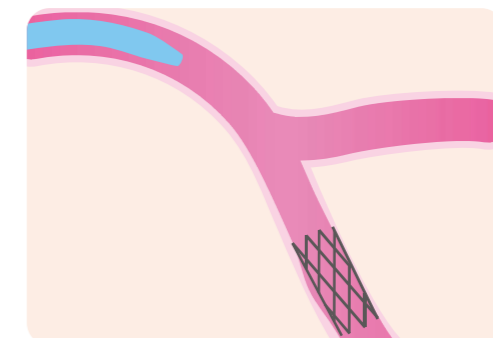
1 細くなっている血管の入口にカテーテルを留置します。



2 狭窄部位を医療用の風船で広げて、元の血管の太さに戻します。

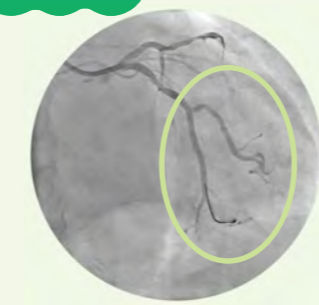


3 再狭窄を防ぐために、ステントと呼ばれる筒状の金属を留置します。



4 風船とステントにより血管の狭窄が解消され、血流が戻りました。

治療後



患者さんの治療後の画像です。正常な血管の太さに戻り、血流状態も良くなりました。急性心筋梗塞の場合、迅速に治療を行い虚血時間が短いほど、心筋が受けるダメージも少なくなります。ちなみにこの患者さんは、救急外来に来院してから血流が戻るまで約1時間でした。

心臓カテーテルセンター コメディカルチームを紹介します！

心臓カテーテル室は2部屋あり、1年間に約1,700件（平成29年度）の検査や治療を行っています。コメディカルチームは、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士で構成されており、それぞれが持つ専門的な知識や技術を駆使して、患者さんに質の高い医療を提供しています。



看護師

看護師は、医師から指示があった薬剤を投与したり、患者さんの不安や緊張を和らげるために常に患者さんに寄り添っています。また患者さんの様子などをカルテに記載しています。



診療放射線技師

診療放射線技師は、術前に撮影したCTなどの画像から、病変部が見やすい角度を医師にアドバイスしたり、患者さんやスタッフの被ばく管理を行ったりしています。



臨床工学技士

臨床工学技士は、患者さんの心電図や血圧、心拍数などのバイタルサインの評価と、血管内超音波や生命維持装置の操作と管理を行っています。

特殊撮影一課
 (兼)一般撮影課 課長代理

大築 慎一

おおつき しのいち
 日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師

チーム作りに1番重要なことは、コミュニケーション。お互いにリスペクトしながら何でも言い合える環境こそが、患者さんに質の高い医療を提供する上で最も大切なことと考えています。

Check!



突然ですが…栃木の残念な全国ランキング

- 虚血性心疾患死亡率 …… 男性 5位 女性 5位
- 脳卒中死亡率 …………… 男性 4位 女性 2位
- 大動脈瘤、解離死亡率 …… 男性 6位 女性 4位
- 平均寿命 …………… 男性 42位 女性 46位

出典：平成27年都道府県別生命表年齢調整死亡率の概要（厚生労働省）

これらのデータから、栃木県は動脈硬化が原因による血管系疾患が非常に多いことがわかります。主な原因は、塩分の摂りすぎや喫煙、運動不足であることが分かっています。生活習慣を見直し、健康に対する意識を高めましょう。

